

第一病棟 一年の振り返りと今後の課題

第一病棟看護科長 濱 田 譲

平成15年度の第一病棟の看護方針と看護目標については、文章化しスタッフ全員に言葉で理解してもらった。

重症患者のケア、寝たきりにさせないための介護と車椅子移動、毎日数十名の患者の介助入浴や清拭等と精神科本来の看護へは手薄になっていることは否めない。

しかし、毎日休むことなく続けられる看護ケアではあるが、残念であるが人手不足や気の緩み、確認不足が原因で転倒転落等の事故が起きている。

今年の4月より、大学の事情により医師1名が減少し、それに伴い入院患者も減少傾向である。

患者の動向は、入院184名（転入44名）退院も184名（転出29名）で身体合併症患者が重症化し、死亡数は4名であった。

4月に今年も新人看護師2名が配属された。いつものことであるが新人の動きはどこかぎこちなくウロウロしているが、今ではすっかり看護師らしくなり堂々と動き回っている。ただ、常に新人の時の気持ちを忘れず、いずれ来るであろう自分の後輩には、やさしく接してほしい。

自病協学会の出席は、平成13年の岐阜大会以来、3度目の参加であり、この場をかりてお礼と感謝

を申し上げたい。発表したスタッフには大きな自信となったことは言うまでもない。今年の研究発表は固定チームナーシングになり、各チームが自主的に取り組むようになって来ている。

名寄短大の看護学生の実習については、今年から新たに総合実習と老年期実習が加わり、臨床実習の研修を受けたスタッフが極端に少なく、指導者の育成と実習体制作りは今後の課題である。

固定チームナーシングを導入して約10ヶ月が経過した。互いに患者の情報交換やカンファレンスを積極的に行い、着実に看護師個々の実績、責任感、達成感などの成果も上っているが、一部、力の発揮出来ない看護師もいて、これも今後の課題である。

組織を動かすのは「人」である。人材育成は最も大事なことであり、優秀な看護師を育てるシステム作りは、一人ひとりが意識して努力する必要がある。結果、患者により看護を提供し、又信頼を得て、事故を防ぐことにつながると確信している。

12月より看護部の組織強化と活性化を目的として、係長が2名体制となった。課題が山積しているが、両係長の協力で課題達成のため努力していきたい。

